

# ボランティアセンター活動概要（抜粋）

---

## 1 ボランティア取り扱いと学生の状況

2011年の開設以来、地域にある多くの団体や組織の支持を得つつ、毎年多くのボランティアの依頼もいただいています。2019年度も前期99件、後期67件、合計166件の指定された日時に行うボランティア（オン・デマンド型<sup>1</sup>）依頼と、22件の年間を通して行うボランティア（継続型<sup>2</sup>）依頼がありました。たくさんのご依頼をいただきながら、ご希望のボランティアをお送りすることができず、ご要望にお応えできないケースも多くあり、センターとしては心苦しい思いをしております。

### 1.1. ボランティア活動の分類

ボランティア活動の分類はさまざまありますが、便宜上以下のように分類し、当センターが扱っているボランティア活動を整理してみます。

- ① 「こども」… 乳幼児から小学生までを対象とする活動です。幼稚園・保育所の行事、乳幼児向けのイベントのお手伝い、小学生の遊び相手等の活動です。
- ② 「福祉」… 障がい者施設、高齢者福祉施設から寄せられる各種行事のお手伝いとしての活動です。0歳児から100歳を超えたお年寄りの方と触れ合います。
- ③ 「地域活性化」… 地域社会で開催される各種お祭りで託児や、誘導、案内などのお手伝いをします。
- ④ 「国際交流」… 海外からの観光客のボランティア通訳、海外からの留学生との交流などのお手伝いをします。
- ⑤ 「農業」… 近年人気のボランティアです。作物の手入れ、収穫のお手伝いをし、あわせて農家の方々から生産者としての思いや苦労話なども伺います。
- ⑥ 「平和活動」… 平和都市ヒロシマならではのボランティアといえます。8月初旬の原爆記念日を中心に活動依頼が入ります。

---

<sup>1</sup> 'on demand'（請求／要求ありしだい）に対応するボランティア活動ということである。当センターに対し、学生ボランティア募集の依頼があった際、社会的信用のある団体・組織か、学生の人間の成長を促す要素があるか、学業へ差し支えないスケジュールか、過度な負担や責任を負うものではないか、商業活動の一環としての活動ではないか、などを審査し学生に紹介するか否かを決定している。

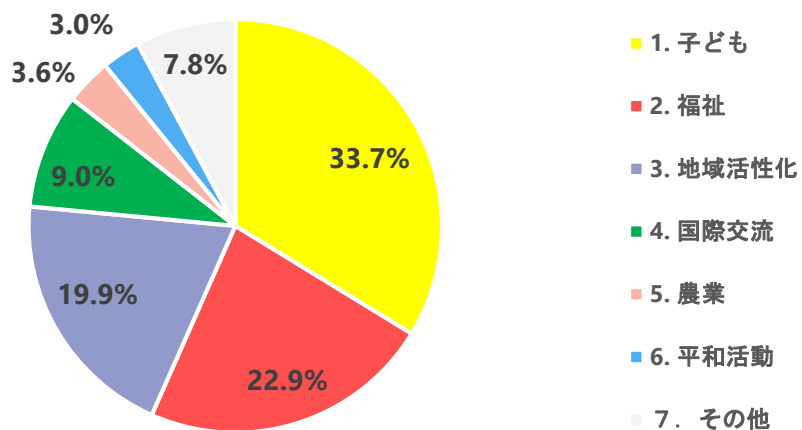
<sup>2</sup> 依頼は年間を通じて毎週あるいは毎月定期的に、というものであるが、そのような活動が可能な学生は皆無であり、参加メンバーも固定しない。したがって、定期的継続的に開催される行事であっても、その都度募集依頼していただき、学生に告知する形をとっている（例、「牛田小学校で遊ぼう」）ので、「オン・デマンド型」活動に含まれている。

⑦ 「その他」… 献血、募金など上記の分類に入らない活動です。

上記の分類に従って今年度受け付けたボランティア依頼を集計したのが、下のグラフ（「ボランティア活動の内訳」）です。地域社会でのボランティアに対するニーズを反映して、子ども向けや福祉施設での行事お手伝いの依頼が全体の 6 割近くを占めています。地域で開催される各種イベントに若い力を借りたい、という要望も根強いです。件数は少ないですが、人手不足が深刻な農業分野においても、短時間でもお手伝いしてほしいという要望があります。

グラフ 1

ボランティア活動依頼の内訳 (2019年度受付分)



## 1.2. 学生を取り巻く状況

現代の学生は忙しくなっています。きびしい出席管理、多くの課題提出、就職活動の一環としてのインターンシップ参加など、彼らの親の世代ほど学生生活に時間的、精神的な余裕はありません。また、かつて学生は遊びやレジャー、ファッションなどへの支出に充てるためにアルバイトをしていたものですが、近年の学生は家計を助けるために働くというケースが大半を占めます。継続的にかかわり、時間とエネルギーを割くことの難しさは、クラブ・サークル活動の低迷にも表れています。

## 2 「プロジェクト型」と「オン・デマンド型」ボランティア活動

### 2.1. 「プロジェクト型ボランティア活動」

ここでいう「プロジェクト型ボランティア活動」とは、①ある共通の問題意識を持った学生が、②主体的かつ継続的に、③その問題の社会的な解決に向けての働きかけ、あるいは啓発活動をするボランティア活動のことをいいます。それは、④定期的にプロジェクトを実行しそれに対する評価でひとまず完結し、中心となった学生から後輩の学生に引き継がれる、という特徴も持っています。後述する「オン・デマンド型ボランティア活動」とは、学生が②でいう「主体的かつ継続的に」関わるという点、④の後輩学生にその活動が引き継がれるという点で一線を画しています。

「プロジェクト型ボランティア活動」は、その活動を通じて学生が社会性を身に着け、若さとパワーで社会的なアクション起こしつつ人間的にも大きく成長するという、ボランティア活動の一つの理想形でもあります。残念ながら、この形態のボランティア活動に関わる学生は、1.2「学生を取り巻く状況」でも触れた背景もあって年を追って減り、後述の報告にある通り、2プロジェクトを数えるだけになりました。

一方で、本学には「プロジェクト型ボランティア活動」をある程度代替する機会を学生に提供しています。それは「新入生オリエンテーション・キャンプ<sup>3</sup>」リーダー組織とあやめ祭（学園祭）実行委員会です。いずれも十数人の3年生幹部が下級生50人以上を率い大きなイベントの成功に向けて、半年～1年献身的に活動します。その活動を通じて幹部学生たちは、大きな達成感、自己効力感を獲得し成長を遂げ、後輩に受け継いでいます。したがって、確かにこの形態のボランティア活動は低調ではありますが、学内イベントの実行委員会がその代替機能を果たしているという意味で、それほど悲観的に考える必要はないのかもしれない。

### 2.2. 「オン・デマンド型ボランティア活動」

学生を取り巻く状況が上記の形態のボランティア活動への参加を難しくしていること、また本学にはその機能を代替する学生イベントがあり、当センターの機能も「オン・デマンド型ボランティア活動」の機会を学生に提供することに力点を置いています。すなわち、学外の組織・団体が

---

<sup>3</sup> 毎年4月後半に新入生向けに実施される特別プログラム。各学科の4年生トップリーダーのもと3・4年生幹部と2年生が、新しく始まる学生生活に新入生がスムーズに入れるよう、学科の特色を活かしながらゲームや集団行動の企画・実施をする（現在は1泊2日）。企画・進行をすべて幹部（リーダー）の統率の下に実施されるため、幹部たちの中にリーダーシップ、臨機応変さ、段取り能力等が養われている。

らのボランティア依頼に関する窓口、ボランティア情報の学生への紹介、活動に参加する学生の安全への配慮をし、地域社会への貢献と学生の人間的成長に資することを当センターは目指しているのです。

## 3 2019 年度ボランティア登録者数と参加者数データ

### 3.1 本学のボランティア登録と「ボランティア活動保険」

本学の場合、ボランティア登録＝「ボランティア活動保険<sup>4</sup>」への自動加入となっています。学生の皆さんに安心してボランティア活動に取り組んでいただきたいためです。ただし、「自発的な意思による活動とは考え難いもの」すなわち、授業の一環、単位取得の条件など、学校の管理下にある奉仕活動は当該保険の対象外であり、当センターのボランティア活動に含まれていません。例えば、ゼミ活動の一環で管理栄養学科の学生が、小学校であるいは高齢者を対象に栄養指導をする、無農薬米を栽培している農家の応援のために田植えや収穫を手伝う、などは対象外となります<sup>5</sup>。学外での実習や就職活動の一環としてのインターンシップも同様です。実は、そのような当センターが扱わない、学科主導で行われる地域貢献活動は意外に活発に行われていますが、当報告書では扱いません。

### 3.2 全体データ

昨年度と比べると、ボランティア登録数、ボランティア参加実数において大きな変化はありませんでしたが、ボランティアのべ参加者数で 100 人以上の減少となりました（表 1 参照）。その大きな要因は、表 2.の「参加回数別人数比較」で示す通り、2 回以上、特に 5 回以上の多数回参加している学生が減少していることが考えられます。特に、年間 8 回以上参加した学生数は 2019 年度 1 名でしたが、2018 年度は 8 名（13 回 1 名、12 回 2 名、10 回 1 名、9 回 4 名）という多さでした。この差については今後検証が必要です。

---

<sup>4</sup> 「ボランティア活動保険」とは社会福祉法人 全国社会福祉協議会が損害保険会社と団体契約している損害保険で、有効期間は年度内の 1 年間、申込窓口は各社協である。本学では、保護者の支援組織「大学協力会」が保険料（一人 350 円）を負担していただいている。[https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/council/volunteer\\_activities.html](https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/council/volunteer_activities.html) 参照。

<sup>5</sup> その場合は「大学行事」あるいは「学外行事」となり、公益財団法人 日本国際教育支援協会(JEES)が扱う「学研災」（学生教育研究災害傷害保険）「学研倍」（学生教育研究賠償責任保険）の対象となる。教育実習や大学が認めたインターンシップも両保険適用となっている。

表 1. 全体データ

区分	項 目	人数、割合	
		2019 年度	2018 年度
a	学部生総数（5月1日現在）	1,327	1,353
b	ボランティア登録者数（年間）	385	371
c	ボランティア登録率(b/a)×100	29.0%	27.4%
d	ボランティアのべ参加者数	495	608
e	ボランティア参加実数	261	257
f	実動割合 (e/b) ×100	67.8%	69.3%

表 2. 参加回数別人数比較

参加回数	2019 年度		2018 年度	
	人数 (261)	割合%	人数 (257)	割合%
1	157	60.2	118	45.9
2	50	19.2	59	23.0
3	18	6.9	36	14.0
4	25	9.6	20	7.8
5	4	1.5	7	2.7
6	2	0.8	7	2.7
7	4	1.5	2	0.8
8～	1	0.4	8	3.1

### 3.3 学科別登録者数

1.1.で掲載したグラフ 1（「ボランティア活動の内訳」）が示す通り、地域社会からのボランティアの依頼は、子ども向けや福祉施設での行事お手伝いの依頼で 6 割近くを占めており、本学児童教育学科に対する地域の期待も大きいものがあります。学科としても将来の小学校や幼稚園教諭あるいは保育士を目指す学生に、「現場で子どもたちと触れ合う経験を積ませたい」との思いと教育的効果の高さから、積極的にボランティア活動に参加するよう指導していることもあり、突出した登録率となっています。しかし他学科においても、特に 1 年生は

合計すれば 33% (249 人中 83 人) が登録しており、ボランティア活動への関心の高さがうかがえます。生活デザイン学科学生の登録率の低さは、自分の関心領域とボランティアの内容が一致しないことが主な要因と考えられます。しかし、視野の広い社会人となるためにも、今後は当該学科学生に対してボランティア活動に取り組んでもらう啓発活動が必要と思われる。

表 3. 学科別登録状況

学 科	学科 在籍 者数	登録者数	1 年		2 年		3 年		4 年	
		登録 割合	在籍 者数	登録 者数	在籍 者数	登録 者数	在籍 者数	登録 者数	在籍 者数	登録 者数
児童教育/ 幼児教育 心理	312	186	77	70	81	63	74	45	79	8
		59.3%	90.9%		77.8%		60.8%		10.1%	
生活デザイン/ 生活デザイン・ 建築	269	27	74	10	91	15	49	2	55	0
		1.0%	13.5%		16.5%		4.0%		0%	
国際英語*	139	45	61	21	78	24	-	-	-	-
		32.3%	34.4%		30.8%		-		-	
日本語・日 本文学/ 日本文化	95	29	49	14	45	15	-	-	1	0
		30.5%	28.6%		33.3%		-		0%	
国際教養	218	41	-	-	-	-	105	25	113	16
		18.8%	-		-		23.8%		14.2%	
管理栄養	294	55	65	38	84	11	66	6	79	0
		18.7%	58.5%		13.1%		9.1%		0%	
学年別登録割合			46.9%		33.8%		26.5%		7.3%	